

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101223
法人名	財団法人老年病研究所
事業所名	グループホームひまわり
所在地	前橋市大友町三丁目22番地9号 (電話) 027-253-3322

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(平成21年10月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤	18人, 非常勤 1人, 常勤換算 18.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての	2階	～ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	有(150,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日1,600円		

(4) 利用者の概要(10月16日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	7名	要介護2	8名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 87.56歳	最低	73歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(財)老年病研究所付属病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、病院や老人保健施設、通所と訪問施設等を運営する法人の敷地内にあり3ユニットを有する。併設病院より定期的に診察や健康診断を受け、健康管理を行っている。4階建ての建物の2階から4階に1ユニットずつあり、屋上は家庭菜園ができるように土を入れて野菜作りと草花を楽しんだり、ベンチで日向ぼっこができるようにするなど、庭がなくても工夫して生活感や季節感を取り入れている。併設病院で定期的に行われる研修会に参加し、技術や知識を身につけ日常ケアに活かしている。事業所内では食事やレクリエーション等を担当制にして、役割を通じて職員が成長できるようにシステム化し育成している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議等を通して地域行事の情報を得ているが参加までにはいたっていないため、敬老会等地域の活動に参加できるように検討している。管理者は外部主催の研修会に参加し、同業者との交流や連携することの重要性を認識し、他のグループホームとの交流を検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者がまとめ、各ユニットのリーダーが確認しカンファレンスで職員に伝えている。評価一連の過程を職員全員で取り組むことで、ケアの振り返りや業務の見直しをする機会にされることを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、事業所の運営状況や行事、入居者の様子などを報告している。自己評価や外部評価の結果についても報告している。参加メンバーが会議の意義や役割を理解し積極的に参加し、質問や意見・要望が出され話し合いができることを期待したい</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>1階エレベーター前に意見箱が設置され、外部の相談窓口の連絡先が掲示されている。家族の来所時は、報告とともに意見や苦情を積極的に伺い反映させている。家族からの意見から、日用品の歯磨きやオムツなどの在庫状況を個別に知らせるボードを作成している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の公園への散歩や併設病院へ受診の際は、挨拶を交わしている。事業所内には託児所の子供たちや近隣の看護系の大学や音楽療法の学生などを受け入れている。併設病院の夏祭りには近隣の人々を招いており、積極的に参加し地域との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、わかりやすい言葉で利用者がその人らしく生活が送れることを支え、「できる力」を大切に支援助を行うことを掲げている。	○	地域密着型サービスでは「家庭的な環境」と「地域住民との交流の下で」を基本方針としており、管理者は職員と共に話し合い見直しを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールの見やすい場所に掲示し、職員の名札の裏にも印字して何時でも確認できるようにしている。全体会議やミーティング等の話し合いでは、日々のケアが理念を反映しているか確認している。		
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や併設病院への受診の際は、挨拶をしている。事業所は託児所の子供たちや近隣の大学(看護、音楽療法科)の実習を受け入れている。併設病院の夏祭りに近隣の人々を招いて、地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者がまとめ、各ユニットのリーダーが確認してカンファレンスで職員に伝えている。外部評価の結果は、会議で話し合い改善に向けて取り組んでいる。	○	自己評価のねらいや活用方法の理解を職員と行い、評価一連の過程を職員全員で取り組み、ケアの振り返りや業務の見直しをする機会にされることを期待したい。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1回の頻度で行い、参加メンバーは各階の家族代表者、自治会長等の地域代表者、市担当者が出席している。会議内容は事業所から行事などの報告や利用者の日頃の様子を報告している。	○	会議は概ね2ヶ月に1回以上開催し、参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を十分に理解して積極的に参加し、質問や意見、要望などが出され話し合いを行い、サービス向上に活かせることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席依頼や行事の通知、相談(スプリングラーの件)等を、管理者は直接役所へ出向き担当者と話し合う機会をつくりサービスの質向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況や健康状態等について、家族が来所した機会を捉え直接報告している。また、医療機関へ受診した場合はその結果を所定の用紙に記入し送付したり、緊急時は電話で報告している。	○	来所できない家族にも定期的に状況報告ができるような取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階エレベーター前に、意見箱の設置や外部の相談窓口の連絡先が紹介されている。また、家族の来所時に利用者の状況報告とともに意見や苦情等を積極的に伺い反映させている。家族からの意見で、日用品(歯磨き、歯ブラシ、オムツ等)の在庫状況を個別に知らせるボードを工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間で職員の異動は行っているが、夜間には3ユニットを2名の職員で見ているため職員との関わりは続いている。職員の異動は、ユニットの入り口に設置された写真付きネームボードに掲示し報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設病院の研修や外部研修に参加し、研修参加後は報告書を作成し回覧で共有している。事業所内では食事やレクリエーション等を担当制にして、役割を通じて成長できるようにシステム化し育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ユニットありユニット間の交流や話し合いを行っている。管理者は外部主催の研修会に出席し、同業者との交流や連携することの重要性を認識し、今後検討していく考えである。	○	今後は他のグループホームとの交換研修等を通して、さらにサービスの質の向上に取り組まれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	パンフレットや資料を渡し詳細に説明している。また、本人や家族が事業所を見学し、一緒にお茶を飲んだり等の体験や雰囲気を感じてもらい徐々に職員や他の利用者に馴染めるようにしている。「ぬいぐるみをそばに置いて」など家族の希望を聞きながら利用者や家族が不安なく利用できるように工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒にテレビを見ながら政治や野球のことなどを学んだり、戦争の話や昔話を聞かせてもらったり、料理の味付けや編み物など教えられる場面が多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、返す言葉や表情から意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は、家族等から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者は、基本情報や利用者や家族の意向を聞きながら介護計画を立案し、職員に説明して修正や追加を行い作成している。作成された介護計画は、来所時に家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に定期的に行っている。週1回行っているカンファレンスで職員の意見を聞きながら、必要時に追加修正をしている。利用者の状態変化に応じ、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院に受診する場合は、職員が送迎をしている。利用者が入院した時は日頃の状態を報告したり、入院継続が難しい場合は退院し往診や受診で対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医による受診継続の有無を確認し、併設病院の受診希望については通院の送迎についても支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、入居時に重度化した時の対応を聞いている。事業所は、経口的に食事摂取が出来ない等の場合は病院対応することを入居時に本人や家族に伝え了承を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は人生の先輩であり尊厳を守ることが、職員に周知徹底されている。利用者の名前を呼ぶことやトイレ誘導等のさりげない言葉かけや対応に配慮している。また、個人に関する記録類はロック式の戸棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴を把握した上で、その日の状態を確認しながら支援している。病院の公衆電話から自宅に電話をする人、屋上の菜園で日光浴をしたい人、昔の教え歌や家にいた時の自慢話をする人など一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味の好みを取り入れたり、利用者の食べたいものを献立に反映させている。献立には、赤飯やお弁当、旬の食材や行事食など楽しみになるように工夫している。また、調理の味付けや片付け等を職員と一緒にやっている。おやつでは、饅頭やどら焼き作りなど利用者の力を活かしながら一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を目標に、その利用者に応じた働きかけをしている。拒否がある時は、別の時間に声をかけたり、トイレ誘導しながらなどタイミングを図りながら支援している。また、今日は「○○温泉」と入浴剤を入れたり、ゆず湯にする等入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や健康状態に応じ、洗濯物たたみやモップ掛け、得意とする針仕事、料理の下ごしらえや味付けなど一人ひとりの力を活かした役割を支援している。また、ボール遊びや紙芝居、塗り絵やカルタなどのレクリエーションを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者本人の好きな飲み物持参で屋上の菜園に行ったり、近隣の公園へ散歩したり、年間イベントのお花見やイチゴ狩りに出かけたり、外食に行ったりしている。また、バリアフリーのお店で各自小遣いを持って買い物したり、病院の売店で買い物する等利用者の希望に沿って外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居住空間は2、3、4階にあり、屋上には菜園や物干しの場が設置され、移動はエレベータを使い暗証番号で開閉している。職員は施錠することの弊害を話し合い理解し、安全を考慮して希望時は職員が付き添い外に出ている。	○	鍵をかけないで支援していく意識を持ちながら、今後も職員で鍵をかけることについての話し合う機会を持ち続けていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署主催の消火講習会を管理者が受講し、年2回は職員と利用者参加で避難訓練を行っている。火災発生時の通報や建物から避難誘導等を行っている。また、自治会を通して災害時の協力を依頼している。備蓄食料は併設病院に保管されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は各ユニットの責任者が作成し、併設病院の栄養士に相談し栄養バランスを考慮している。一人ひとりの状態は利用者の検査結果も見ながら工夫し支援している。食事の摂取量は1日3回全量摂取で10を基準に個別に記録している。また、水分は1日量10を目安に飲水したらチェックし、全職員で確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の西側は一面のガラス窓であり、カーテンで光や明るさの調整をしている。また、数名で座れるソファがあり、おしゃべりをしたりテレビを観たり各々が居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6畳程の居室には洗面所、押入れが設置され、床もフローリングか畳でベットを使用するのか等本人の希望を取り入れている。自宅から持参したタンスや飾り物、植物など使い慣れたものや好みのものを活かして居心地よく過ごせるような工夫をしている。		